第 110 回　計測技術委員会議事録

日　時　平成 18 年 5 月 19 日（金）　14：00～16：00
場　所　電気倶楽部　第 2 会議室
出席者　委 員 長　信太（佐賀大）
　　委　　員　内田（電通大）、大木（日電検）、大谷（アンリツ）、佐山（防衛大）、
　　田辺（電中研）、仲嶋（三菱電機）、作田（日本大）
　　幹　　事　作本（日電検）
　　幹事補佐　白井（日電検）

資　料
110-1　第 67 回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会議事録
110-2　平成 18 年度　計測技術委員会活動計画（最終案）
110-3　平成 18 年度　計測研究会開催予定（最終案）
110-4-1　計測研究会「電磁波計測」（6 月 14 日開催）
110-4-2　計測研究会「計測一般」（7 月 21 日開催）
110-5　平成 17 年　論文発表賞 A 賞割当数
110-6　平成 18 年度　連合研究会
110-7-1　周波数・時刻の高精度計測応用技術調査専門委員会 解散報告書
110-7-2　周波数・時刻の高精度計測応用技術調査専門委員会 活動報告
110-8　APLMF 法定計量研修報告

議　事
１．議事録の確認
・異議なく承認された。

２．運営委員会報告（平成 18 年 2 月 2 日および 5 月 15 日開催分）
白井幹事補佐（信太委員長代理出席）より、資料 110-1 に基づき以下の報告があった。
イ．調査専門委員会の解散（9 件）および新設（3 件）が承認された。
［解散］
・柔構造を持つ有機電気・電子材料のナノテクノロジーへの展開に関する調査専門委員会（誘電・絶縁材料技術委員会）
・磁気利用センシングシステム調査専門委員会（ﾏｸﾞﾈﾃｨｯｸｽ技術委員会）
・調和型磁気応用技術調査専門委員会（ﾏｸﾞﾈﾃｨｯｸｽ技術委員会）
・電力変換・制御システムにおける磁気応用技術調査専門委員会（ﾏｸﾞﾈﾃｨｯｸｽ技術委員会）
・電気工学関連分野における諸外国の教育実態調査専門委員会（教育・研究技術委員会）
・アーク・グロー放電現象基礎技術調査専門委員会（放電技術委員会）
・周波数・時刻の高精度計測応用技術調査専門委員会（計測技術委員会）
・情報・通信・電力基盤における雷害ﾘｽｸﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄと協調調査専門委員会（電磁環境技術委員会）
・電磁界による体内誘導電界・電流調査専門委員会（電磁環境技術委員会）
［新設］
・磁気応用におけるシミュレーションツール活用技術調査専門委員会（ﾏｸﾞﾈﾃｨｯｸｽ技術委員会）

・高分子材料と放射線の相互作用評価技術調査専門委員会　（誘電・絶縁材料技術委員会）
・不均一および過渡的な電磁界による体内誘導量評価技術調査専門委員会
（電磁環境技術委員会）

ロ．論文誌について

・共通英文論文誌は John Wiley 社に外注することが決定した。2 年間は印刷費などを Wiley 社が負担する。

・全部門誌のページ数が低下している。A 部門でも、平成 15 年の 1123 ページから平成 17 年には 902 ページとなった。

ハ．調査専門委員会設置趣意書について

・「内外のすう勢」を技術動向だけではなく、その分野の調査活動の有無についても記載することとして、「背景及び内外機関における調査活動」の項目に変更する。

ニ．記念碑的顕彰について

・技術史的な物を対象とした顕彰制度の創設が検討されている。IEEE のマイルストーン賞のようなレリーフを贈ることが考えられている。

ホ．技術者教育委員会報告

・ JABEE の審査委員に対し、学会長名で感謝状を発行する。

３．平成 18 年度活動計画並びに計測研究会開催最終案

作本幹事より、資料 110-2 および 110-3 に基づき、平成 18 年度活動計画並びに計測研究会開催最終案について説明があった。

・三次案から変更はない。

・ A 部門大会は 8 月 21 日～22 日に熊本大学で、東京支部連合研究会は 9 月 7 日～8 日に工学院大学で開催される。

・ 5 月の計測研究会「計測一般」は都合により開催できなかった。また、佐賀大学で開催される研究会は 11 月 16 日～17 日の 2 日間を予定する。

・見学会は次回委員会に候補を上げ、検討したい。

４．調査専門委員会解散報告

作田委員より、資料 110-7-1 および 110-7-2 に基づき、周波数・時刻の高精度計測応用技術調査専門委員会の解散報告書について説明があった。

・電気学会 C 部門では、精密周波数関係の委員会が設置され、EM シンポジウムなども開催されている。

・委員会、研究会など計 9 回開催した。

・米国の NIST で開発された IC チップサイズの原子時計について、計測研究会において特別講演を行った。また、情報通信研究機構や C 部門の調査専門委員会などと共催し、超小型原子時計に関するワークショップを平成 18 年 3 月に開催した。

・ NIST の原子時計は 300 万年に 1 秒しか狂わないもので、100 ドルを下回る価格となっている。

５．優秀論文発表賞割当て数

作本幹事より優秀論文発表賞の割当て数について報告があった。

・平成 17 年の計測技術委員会への割当て数は 1 件であるが、これにより平成 18 年の繰り越し点数が 0.44 となった。

６．東京支部連合研究会について

作本幹事より資料 110-6 に基づき、東京支部連合研究会は 9 月 8 日の午後に参加するという回答を行ったとの報告があった。

７．最近の技術談話

大木委員より、ベトナムで 3 月に開催されたアジア太平洋法定計量フォーラム（APLMF）主催の法定計量研修に関する紹介があった。

・試験機器は海外輸入品を使用しているが、一部には自作のものも使っている。自作のものは性能が良くないようである。

・ハノイには電力量計製造メーカ EMIC があり、機械式のほか、電子式電力量計も製造している。また、遠隔検診も検討している。

・法定計量研修では、日本の計量法、電力量計の型式承認、検定・検査、および基準器検査などについて講演を行った。検定・検査では、器差試験などの検定方法について、大口需要家向けの計器用変成器の検査について説明を行った。

次回予定

日　時　平成 18 年 8 月 4 日（金）

場　所　未定